梅咲く日

今瀬剛一

雪を消す雨の音なり夜に入る
思ひ出し笑ひを笑ひ蕗の薹
干潟てふ置いてけぼりを歩くなり
ずる休みせし昔あり木々芽吹く
杉檜大地に雪を吸ふ力
どこをどう歩くも梅の咲く日なり

白梅の風ひりひりと痛きかな

石に浮く我が文字さくらさくらかな

いましがたまで母とゐし春の夢

登らんと氷瀑叩く男なり

雪折の中途半端は切り落とす

老病死老病までは春の内

桜詠む呆と桜の中にをり

農具市はみ出してゐる耕運機

雪消えてゆく足跡の消えてゆく